

第1決算審査 特別委員会報告

平成25年度大木町一般会計 歳入歳出決算認定

収入未済額が多額となっており、大多数を占める善良な納税者に、不満を抱かせるような結果にならないように、引き続き収納対策の強化を望む。

総務課

職員の間外勤務の状況は、平成24年度と25年度では、若干の増となっているが、以前に比べ相当時間数が減ってきている。努力を評価するが、職員の残業については、健康管理に十分留意されるよう要望する。

入札制度について、大型工事の入札が行われたが、参加者が少なかった。入札応札者が増える様に入札制度を検討されるよう要望した。

電算機器、ソフトウェア料が高額で、殆どが外注費であり競争原理を働かせ経費の節減に努められるよう要望する。

消防団については、東日本大震災の教訓を踏まえ、法律及び条例改正により、待遇が改善された。

防火水利について、自然水利（クリーク）の点検・整備を関係課と協議されるよう要望する。

委員長 松枝友久
副委員長 古賀泰弘
委員 中島征行
近藤純久
中島宗昭
松枝治幸

企画課

景観・土地利用に関する検討の進捗が遅いと感じる。目標を絞って進めるべきと要望した。

掘再生推進事業については、3カ年計画であった。今後は、なるべく農地・水・環境事業に移行してもらおうように進めていきたい。また、どうしても取り組めない地区は、個別に相談に応じる。

ケーブルテレビの加入率向上は、くーみんテレビと加入促進のための定期会議を実施している。先ずは20%を目指して行く。西鉄バス羽犬塚線利用状況は、毎年度微減となってきた。



水路整備現地調査

会計課

地方債のうち普通債は、平成24年度末現在高24億9800万円、平成25年度末24億6900万円。健全で持続可能な財政基盤の強化の継続を要望する。



久留米市にある大木町の土砂仮置場

建設水道課

商工会の皆さんとの懇談会でも課題となった、委託料の測量、設計が低価格で落札されている。最低制限価格が無く、殆どが人件費であり、手抜き恐れがあるので、入札委員会での検討・改善を要望した。

地籍調査費は、水路整備後の未整理地が残っている。解決に向け努力されるよう要望した。また、セットバック跡地の管理の徹底を要望した。
住宅管理費、払い下げ問題の進捗状況及び手続き上の課題は、スピード感をもって取組むよう要望した。

産業振興課

農産物加工販売施設の利活用の活性化を要望した。

青年新規就農の課題は、本町では町外からが多いことや本気度が掴めない。性善説で期待するしかないが、対策として訓練期間を置かなど検討していく。

ふれあいファミリー農園の利用率74%であるが、雑草が繁茂している所が多く見られる。このことについては、入園者と意見交換し、農園全体の清掃活動等を実施していく。

住宅改修補助事業は、追加の消費税増税の予定もあり、継続していきたい。

久留米まち旅については、25年度の参加者が少なかったため、26年度は、きのこの町大木町をアピールしたツアーと、アクアスでサイクリングツアーを募集しており、既に定員近くに達した。



供用開始された八丁牟田交差点

税務町民課

空家・危険家屋対策は、取り壊し・撤去すると固定資産税が上がる問題に対し、検討されるよう要望する。

税の徴収については、一段の努力をお願いする。但し、身に危険が及ばないよう細心の注意をして関係機関と協力のもと実施されるよう願う。



審査のようす

平成25年度大木町 水道事業会計決算の認定

財政状況は、収益的収支で純損失となり、平成25年度末までの累積欠損金は、226万760円の赤字決算。

その要因としては、修繕件数が前年度に比べて92件の増となり、水道管が創設から約40年経過しており、老朽化に伴うもの。

水道事業の今後の計画は、平成27年度より水道管の老朽化更新事業に事業着手する。